



2021年 8月 1日  
第9号

# JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



## イーハトーブ

8月1日号

7月23日、2020東京オリンピックが開幕した。新型コロナウイルスによってオリンピック史上初となる開催延期に加え、女性蔑視発言による大会組織委員会森喜朗会長の辞任、開会式直前での作曲家小山田氏の辞任、演出家小林氏の解任と波乱に満ちた大会となった。

市民の50%以上が「反対」している大会というのも異例である。大会開催国にもかかわらず、新型コロナウイルスに対するワクチン接種率が20%台と低いことも、各国メディアは指摘している。市民の声をかき消し、民意を無視し続けた結果ではないだろうか。

華々しく語られることの多い1964年の東京オリンピックも、市民生活に目を向けると、急加速するインフラ整備のために過酷な労働条件下で死亡する労働者が後を絶たなかったことや、困窮のあまり血液を売って生活するなど、多くの市民がオリンピックどころではなかったという。

2013年、安倍首相（当時）は、福島第一原発の汚染水について「アンダーコントロール（制御下にある）」と演説し、東京オリンピック・パラリンピック招致をおこなった。しかし今年4月、菅首相はトリチウムなど放射性物質を含む処理水を海洋放出することを決めたと発表。貯蔵タンクが増加し、敷地がひっ迫しているからだという。これを「アウト・オブ・コントロール（制御不能）」と呼ばずしてなんと呼ぶのだろうか。

政治と金、ウソで飾られた「平和の祭典」を、市民主体、アスリート主体の本当の意味での平和の祭典にするためには、私たち一人ひとりが立ち上がり、政治を変えていかなければならない。

まもなく横浜市長選挙が、そして秋には衆議院議員総選挙が行われる。政治に無関心でも無関係ではない。諦めず、まずは投票にいくことから始めよう。（Y・W）

### イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちが外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。